

東京23区のニュース



東京23区の連載



選挙・東京



東京の観光特集



八丈島台風 1 か月 災害廃棄物 2. 5 万トン見込み 断水長期化産業に影

伊豆諸島を台風 2 2 号が直撃してから 9 日で 1 か月となる。被害が大きかった八丈町（八丈島）では、大量の倒木を含む災害廃棄物が最大 2 万 5 0 0 0 トンに上る見込みだ。島では長く断水が続いたため、地元産業にも影を落としている。（石井恭平）

「トラックで 2 0 回以上も往復し、やっと倒木を全部片付けられたところですよ」。レモン農家の吉田 公新^{きみひろ} さん（4 6）が 6 日、疲れた表情で話した。



台風で激しく壊れた園芸農家のビニールハウス（いずれも 6 日、八丈町で）

吉田さんは島内 2 か所に計 3 0 0 0 平方メートルの畑を持っている。台風直後、畑の周辺の道は大量の倒木や枝で塞がれ、畑にたどり着けない状態だった。倒れた木々を畑や道路脇によけ、車が通れるようになるまで数日かかったという。

レモンなどの栽培には週 5 0 ～ 6 0 トンの水が必要だが、台風により水道と農業用水が断たれ、別の所でくんだ水でやりくりしてきた。今月に入って水の確保にめどが立ち、畑周辺の木の後片付けを始めものの、全て運び出すのには 3 人がかりで 5 日間もかかった。

町は島内各地に倒木の仮置き場を設けている。ただ、倒木やがれきを含む災害廃棄物の量は、町から年間に出る一般廃棄物の 8 年分に達する可能性があり、町は「早急に処理計画を策定したい」としている。



被災直後、町では全約 4 1 0 0 世帯が断水し、全域が停電した。町や都による復旧作業が進み、断水 6 日時点で 2 1 世帯となっている。5 日現在、自宅が損壊するなどした 8 世帯 1 1 人が 2 次避難所となったホテルに身を寄せている。

産業への影響も出始めている。島名産の「くさや」を製造する長田隆弘さん（6 3）方では、台風で乾燥機や冷凍庫が壊れた。修復には数百万円かかるという。断水に伴い製氷装置が使えないため漁に出られず、くさやに使うムロアジも手に入りにくい状態だ。長田さんは「お歳暮シーズンまでに修理が間に合

ばいいが」と肩を落とす。

島特産の園芸用の葉っぱを栽培する金田秀彦さん（4 8）方では約 1 か月、農業用水が止まった。秋に十分な水を与えないと、新芽が出なくなる恐れがあるといい、「来年の売り上げに影響が出ないか心配だ」と話した。

東京 2 3 区の最新ニュースと話題

🔍 記事に関する報

読売新聞オンラインに掲載している記事や写真などは、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。読売新聞社など著作権者の承諾を得ずに、転載、インターネット送信などの方法で利用できません。

© The Yomiuri Shimbun.